

6月は蛍の飛び交う季節です。蛍はこの梅雨の時期に命を育みます。大雨が続くこの時期は蛍にとって決して良い環境とはいえません。しかし蛍は何もせず、ただその時期を過ごすようなことはしません。そうしたら子孫を残せずそこで終わってしまうからです。自分たちにとって悪い状況のなかでも蛍は飛び立ち光り輝きます。そしてその姿をみる私たちに感動を与えてくれます。

このように神様の創造されたものから私たちは自身のことを見つめなおすことができます。あなたはなんのために生きているか、自分の歩みが人々にどんな影響を与えているか分かっていますか。今日はイザヤ書のみことばからあなたが人生をどのように歩いて行ったらよいかをみていきましょう。

副題に「共に歩いてくれる人がいますか？」とあります。この「共に歩む」というのは、たまたまそこに一緒にいるということではなく、お互いに進む方向が分かっているように歩いていくかを意味します。あなたが関わっている人(家族や職場の人など)を思ったとき、あなたにはなぜ自分がそこにいるのか、なぜその人たちと関わっているのが理解できているのでしょうか。

旧約聖書にエサウとヤコブのことが書かれています。ある時兄のエサウは空腹に耐え切れず弟のヤコブに食物と引き換えに神様の祝福を軽くみて長子の権利を売ってしまいます。(創25：29-34) また、弟のヤコブは神様の祝福をもっと得ようと年老いた父がエサウに与えようとしていた祝福を父を騙して自分の物とします。(創27：1-11) そしてそのことによりヤコブは親と兄のもとから離れなければならなくなってしまいます。ヤコブは兄に恨まれ命を狙われることを恐れ、またこれからのことを思い不安でいっぱいになりました。しかしそんなある夜、夢の中でヤコブは「自分には神様が共におられる」ということに気がきます。そこでヤコブは心を神様に向け、壊した関係を直そうと歩み出します。その後ヤコブは「神は戦われる」という意味の「イスラエル」と呼ばれるようになります。

あなたがもし自分の人生を一人で戦うなら、あなたはくたびれ果ててしまうでしょう。しかし、あなたの人生を戦うのはあなたではありません。あなたの人生は神様が戦ってくださるのです。だからあなたは仕事や家庭でなにかあったとき、自分一人が孤独に戦う必要はないのです。しかし、私たちは神様が一緒にいることを忘れて自分勝手な振る舞いをしばしばしてしまいます。信仰の父といわれたアブラハムでさえ、神様が子孫を地のちりのようにすると約束されたのに、子どもが生まれぬという目の前にある不安から神様の約束を忘れ、人間的な方法をとってしまいました。そのことにより歴史的な兄弟争いの根源を生んでしまいました。

あなたにもそのような時がないでしょうか。私たちは人生のほとんどを真面目に生きています。しかし、ほんのわずかな調子の悪かった時に行った間違った決断が、後々にまで尾を引いてしまう根源になってしまっていることがあります。そのことを私たちは覚えておかなければいけません。たった一回の失敗が回復できない状況を引き起こし、大切なものを失ってしまうこともあるのです。

ですから、私たちは神様と共に歩むために次のことを見つめて歩まなければいけません。

①あなたの立場に生きていませんか？ 私たちは自分がどう立つべきかどう歩むべきかを分かっているならば悩むことも失敗することもありません。しかし私たちは感情的になって物事を正しく判断できなくなってしまうことがあります。地位や名誉、権力やお金に目が行ってしまうこともあります。あなたの素晴らしい人生を壊すのは何者でもないあなた自身です。あなたは何か問題が起きた時、すぐ人のせいにしていませんか。私たちがしなければならないことは、自らの責任で自らをまっすぐに進ませることです。しかしそれは私たちでは出来ないことです。それができるのは神様だけです。つまり自分の人生は自分だけで進めることはできないのです。神様に自分はどのような者であるのかを教えてもらい、神様と共に歩みましょう。**②感情に生きていませんか？** 人は感情によって行き当たりばったり歩いてしまう弱さがあります。あなたは感情を制御できていますか。私たちは感情によって心電図のように良かったり悪かったりを繰り返す人生ではなく向上の人生を歩まなければいけません。また、物事を深く考えず分かったつもりという知識だけの人生でなく、日々分からないことを神様に聞き、悔い改める人生へと変えていきましょう。あなたの人生を戦うのは神様です。何事も一人で考えず、静まって神様に自分の行動一つひとつを聞きながら歩いていきましょう。**③人生、持ち物、あなたのために使っていませんか？** ヤコブは後に12部族全ての人の父となりました。そしてその子ヨセフはエジプトと和解しイスラエルを救いました。ヨセフは正しく歩む人生を選んだのです。あなたは自分のためにだけ自分の人生を歩んでいませんか。自分の人生や持っているものを全て自分で得たと思いませんか。私たちは自分で得たものはなにひとつありません。すべては神様から与えられたものです。もしあなたが自分のために人のせいにし、人を傷つけ、自分で作ったものでないものを自分で作ったような顔をして、自分のためにだけ生きているなら誰があなたを助けてくれるでしょう。自分のためにしか蒔かず誰か人生の友となってくれるでしょう。もし自分のためにだけ歩むならあなたは孤独であることに気が付き、いろいろなものを失っていくことになってしまうのです。ですから、あなたのためにだけ歩む人生はもうやめましょう。

神様はあなたに素晴らしい人生を歩んで欲しいと思っておられます。そしてあなたを通して多くの人が幸せを得ることができるように道を用意してくださっています。ですから自分のために生きる人生から、自分を顧み、神様から与えられている自分の役割を果たすため、神様と共にあなたの人生を歩んでいきましょう。(要約者：金光 瞳)